

## わたしの共同体観 アンケート

最近僕に「お前は共同体指向を放棄したんだろ」と親切に云つて下さる人がいたりしますが、あれで僕自身わからない奥へ足元一を毒され進めます。僕はあくまで「村落を共同体にして」という考え方を捨ててません。だけれど本紙へいや貴紙)コミューイン往来ではむしろへ年に在住

いよりもじだけど、「村落に共同体として地域の中に宗教的な形態として」といった動きが感ぜられます(どちらが絶対いいとのことはありません)僕自身の考えです。尼田氏が「共同体は直率的上向運動であると言つておられるように住民の中から意識として噴出するような運動としなければならないのでは?」

今井氏のように、南極地へ入り様々な共同体思想を、共同体のよさを体む人々に訴えるのが必要のように思ひます。僕は共同体運動として本筋何もやつていません。だけれど、どこか土地を手に入れてすぐ農園を開くことよりも、共同体へ向てるような行動をとりたいと思つています。具体的に何から始めるかも書けないのが残念です。

## 共同体への経済学的アプローチ

### 人間的要因への回帰

現在の社会主義経済論で、セントラルア・プランニングを想定しないものはきわめてまれです。D・G・H・コール位のものではないでしょうか?

セントラルア・プランニングの想定はマルクス主義の影響をしよう。拡散的モデルは必ずしも不可能なことではないでしよう。しかも私は社会主義経済では、完全競争モデルを基礎としたような拡散一方の経済は成立しがたいのではないかと思つています。完全競争モデルが最も合理的だというのは神話に過ぎません。経済的には何らかのセントラルアランジングが必要でしよう。それ自体は、自由連合の原理から導出されるものという感じがします。問題はセントラルア・プランニング自体の思考ではなく、それに至る過程と、その執行の過程です。この点を誤らぬようには、私は民間視せざるを得ません。

現体制下での共同体経済の可能性

現体制下での並行的な共産主義的ないし社会主義的経済の進行というのには、私は民間視せざるを得ません。まず工業的共同体へこのような考え方は今の共同体論にあるのかどうかは知りませんが、では、資本技術からして資本主義企業より優位に立つことはできません(これは断言してもいいと思います)とすれば、総合的自給的共同体でないかぎり、成り立つようがないわけです。

農業的共同体は、それにくれば、自給自足が可能であるだろうといふ点で、もし閉鎖的能力をとれば、成立し得る可能性は多いだろうと思ひます。但し、これには極めて高度な精神性が必要なことは疑問の余地

はないでしょうか? 第一に資本主義経済との交流をしようとすれば、収支を少くとも合せねばなりません。それには、資本主義農業以上の生産性が必要です。これが保証出来なかどうがです。それに、精神性的持続的なものとなるようになります。いづれにせよ私は併行的進行の可能性は少いと思います。

草十 淳 公 英

## わたしの共同体観 アンケート

「解説」「重音」「平和」の言葉として筆頭で英國蜂<sup>イギリス</sup>という言葉を發していまます。しかし「共同体観」にこういつにものが共同体という言葉で、はまだないので、というのは「解放」という概念ひとつ取り上げてみても、今書いたまつたけど、さだかがない。どういき難様の状況を「解放」というのか? どういう状況が「解放」でないのか? それが明確にならなければ、その辺をまず僕は問題意識の対象として、それはまた、心理学の領域の方へ行つてしまつのですが(省略)して、今、振りに、その解答が何らかの形で得られたとすると、次に状況として、裏裏として、作業が必然となつてくると思います。それからこう、実験→理論化→実験というサイキクレイションを運転していくべシだと考えます。だから、僕の共同体観は現在にして、へ、幻想形へ来てにして、へ、不定形へとなるのでしよう。無理矢理こじつけられれば、

染織業

〇、〇

## わたしの共同体観 アンケート

関心は十分持っていますが、もう少し考へ方が甘いのではありませんか。十分腹をすえてやつて下さい。人類幸福のため御健斗を祈ります。

製糸造販売業

N.O

## 一夫一婦は砂の城

そろそろこのプリントの内容が、前からの知人や友人に理解されるとも思えなくなってきたので、川に紙の舟をうがべて風のまにまに流れのままに放ちやるみたいに、なるべくは不知れ、全くのハッピーニングで舟に手をのばす人々の目に止まればいいと思つてゐる。何を感じたとしても、また私の文がヒントになつて、その人の人生が大きく変わつたとして、それは全体の仕組で必然的にそうなつてゐるだけのことであつて、私が文を書き印刷し配布するのも、そういう「時の必然」のひとこまにしか過ぎない。

だから僕に感想を書き送る義務はないし、とにかく義理はないにもない私は「運動」をあこす氣はないし、信者も友人もいらない。独りでこの世に生れ、また独りで火葬場にはこぼれるまで、つかのまの數十年間、すこしはあたりきにやがせたとしても、べつに何といふことはない。孤独は人生の墓誌、ひとりでに耳をかたむけてしまうバツタグラウンド、ミュージックみたいな……。

またやかまと文節に技巧をこらしても無駄なこと。とにかくウーマン、リズムもつとも徹底的で、本物は日本がわが女房の舞の上へ、そして身の中や下までも)におこつたというだけのことである。終所に足を運ぶ日本へ

國政府を相手として結婚登録をやうたのが運つき、結婚制度を窓口に異議が出来たばかりになつた因果がわが身に襲ひ、どうしたの二事である。

小さい子が四人もいて、おはいをエウギニウ襲われたいがミルクタンクも相当にしばみ、その貴婦は主も感じないではないが、それがいつ形而下のことはどうでもいいので、大切なことは私の妻にニキ月寄寓した二十三才のデンマーク青年に二十八才の私が妻を感じまし、銀行によつては身も心もと、その心はすでに一〇〇%そちらに行つてしまつて流行歌の忍どろぼうしみたいに、私としては妻のパートを離れたといふ被害感情がつよい。

今はむかしとちがつて、アラトニツフ、ラブなどという歎の浮いたような観念を信する人はあまりないだらう。男女の仲、あれば、心が通じれば自然からだも結ばれる。夫婦の誓いというのがそもそもおかしいので、一日先もわからぬ人間がどうして一生他の男(女)に心を移しませぬなどという誓約ができるのだろう?

良心的な男なら、オレも自分をしばるからオマエも同じくしばられろと言ふ公平な取引で、終生一本主義をらぬく意志を行使するがましれない。しかし、余でも、五十年前の亭主の心情はたゞして、女房よ、お前はおれの財産・所有物だから、ほかの男の毛根はないんだと厳命し、自分はしょっちゅうこれを別の穴をざがし廻つてゐるのが正直な実態であろう。

だから私の文房あたりがのんびりあげて、ほかの女房族がこれに共鳴して、同じ思想のもとで行動しに出たら、たいていの夫たちは狂乱動乱して何をやりだすかわからぬ。出刃を下でフスリというのが世間の相場軸に小便ひつかけたやつをなぐりとばすのと同じ次元の暴暴力行為である。

僕そうに言つたつて、私というオトコは、妻が愛し、尊敬し、アーティ

リングで、ピツタリとがいう男がらザーメンをもらつて目を輝かせ、からだの皮膚の色つやまでよくなり、「幸福だ」と運営したとき、「よかつた、よかつた」とともにその歡びのこ相伴にあがるほど無私・大變の持ち主ではない。そういうときは苦しむにきまつてゐるのだ。わが妻の「ギナ」が今なお他の男の精液で濡れているということを考えるだけでも、むしろ走る、所有權の侵害とか不潔だと、世間の夫たちが感じるとおりに感じる古い人間である。しかし、だからといって、そういう妻を折柳(ちようぢやく)すると、別居や離婚という手段で「復讐するほど原始的、未開的でもない。いわば寅ぶらりんのどつちつかずの男がここにいる。

だいたいこうことは男の恥なのだから、かりに自分の妻が羞恥が悪徳がヨロメキをやつたつて、人前ではオクビにも出さないのが普通、臆面もないこういう告白は耻知らずか、ストリップ趣味と人に言ふわれるかもしれない。小さいものは蓋・いうのが古来の生活の手本のようであるが、そこが――。

しかし、あが妻は立派なことに、こうことはヨロメキでもクサクもないと言つて、『異妻』を口だし、男女同様が眞理であれば、地球上にでもせならこうしたし、また将来みんな「アタシみたいになら」という。

ほかに妻をみつけるか、こちらも不特定多数を相手に異性が出るほど浮氣・本気でなければ、バランスもとれて、私の心の憂因も晴れるかも知れない。私のことをカミサマのみか、二三人でまとめてかしづくのが、よろこびとおもへこんな種類は今世に残存しているのかな? さて、うまく思つたら、元よりの安寧秩序が壊つてくるのがなつて、しかし、いや、よくよくとみよう。相手をどうかえりかえしただところで、今はもう宗教や道徳のオモシガ利かなくなつて、いるのだから、「妻」とちはつきりと私を裏切つてしまは、ハゲ、ハイするに決つて、一夫一婦制という砂上櫻樹は今やズルズル崩れて、いるのだ。ホクのそして、キミの足もとから、唯一のちがいは、私は気づいているのに、あなたは「気づいていない」という、それだけのこと。

未婚の人に申上げよう。悪いことは言わないから、今この時間から結などという時代、おくれの制度に夢見るつことはやめなさい。結婚資金50万円たのた? ばかりかしい! 競馬が何でいい。何んにスッカラカンになつた方がいい。アラトニツハ半身思想などは、男がセックスト愛に賭けた最高のロマンティックであろう。しかし、現代はあらゆるロマンティック、恋愛小説の手たらき一掃する時代である。夢やロマンは、何の役にも立たない。

(十菱氏は、あびこ通信の発行者です。サーミナラ博士の「王國の王」、「アーティ」の翻訳が、たま出版から出ることになります。超能力の秘密) といふのが日本版のタイトル。なまこの文章には後記があるので、略させていただきました)

千葉県我孫市開発中央二六二一三

十菱

麟

わたしの共同体観 アンケート

英共同体について僕の考え方のはまだ定かでないが、大別して二つの意識があるようと思われる。その一つは、草に学生あるいは一般人が資本主義以前の原始的集団生活を「いわゆるユートピア的なもの」試るということ。それは、この僕たちの社会の様々な矛盾や、欠点など、から逃避を一時的にせよしたいことだらう。ここには使命觀が全くないという二ことが特徴的で、一種の休止なのである。

共同体についての第三の意識は、現代の資本主義社会の矛盾や欠点を根本的に一掃するという意味づけをされた共同体。即ち、この場合、共同体は、資本主義社会へひよつとすると無政府主義社会を含むかもしれないと同値であり、資本主義社会が、資本社会の革命的方法論的な立場からみた第一歩として位置づけられるという考え方である。これは明瞭かに使命觀をもち、それゆえ運動と呼べるものである。僕は以上の二つの共同体観(休止か、運動か)のどちらをとるか、それは次回の機会をやんぶでの体験とともに考えてみたいと思うている。